



KVM0108A

KVM0116A

990-4406D-018

発行日:12/2022





Schneider Electric法的放棄声明

本書に記載の情報は、Schneider Electric が信頼性、無誤謬性、完全性を保証するも のではありません。本書は、詳細な操作手順および用地独自の開発計画書の代替とし て意図されたものではありません。従って、Schneider Electric は、本書の使用に基 づいて発生する可能性がある損傷、法規違反、据付の誤り、システム障害、またはそ の他の問題に対する責任を負わないものとします。

本書に含まれる情報は「現状通り」で提供されるものであり、データセンターの設計 および建設の目的のみに対応しています。本書は Schneider Electric により作成され ましたが、含まれる情報の完全性または正確性に関して、明示または黙示に関わらず 表明するものでも保証するものでもありません。

SCHNEIDER ELECTRIC、またはその取締役、役員、代理人、従業員、会員、親会 社、子会社および支社はいかなる場合も、SCHNEIDER ELECTRICがそれらの損害 の危険性を明確に助言した場合でも、本書またはその内容の使用または非使用に関連 した、またはその結果生起した取引、契約、収入、データ、情報の損失または事業の 中断を含むがこれに限定されないあらゆる直接、間接、必然的、懲罰的、特別または 付随的損害に関して責任を負いません。SCHNEIDER ELECTRICは、本書またはそ の形式に関して、またはその内容を事前に通知することなく変更または更新する権利 を保持します。

ソフトウェア、オーディオ、ビデオ、テキストおよび写真を含むがこれに限定されな い内容物の著作権、知的所有権、およびその他の所有権は Schneider Electric および そのライセンサーが保有します。本文に保証を明記されない内容物に関するあらゆる 権利を保有します。あらゆる権利のライセンス付与または譲渡は認められません。ま た、本情報を取得した人物への権利の許可も認められません。

本書の一部または全部の再販は禁じられています。

Contents

内区19 TW 5 機能 5 安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 同畑部品の確認 8 要件 9 コンソール 9 コンソール 9 コンソール 9 コンピュータ 9 サーバーでの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 前面 11 据付 12 マックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 南要 11 据 11 据 12 電 12 市面 11 指付 12 マックへの取り付け 12 ラックへの取けは< 13 単一階層のKVM スイッチ取付 14 単一階層のKVM スイッチの酸階層構造 15 チェーン階層取付回 15 パードウェアのセットアップ 16 ペードウェアンゲッシアップ 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 19	加以旧和 5 機能 5 酸能 5 安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 両細部品の確認 8 要件 9 コンソール 9 コンピュータ 9 サーバーモジュールおよびケーブル 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 前面 10 常面 11 据付 12 マックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 マックへの取り付け 13 単一階層の取付回 14 単一階層の取付回 14 単一階層の取付回 15 パレードウェアのセットアップ 16 パードウェアのセットアップ 16 パードウェアンボートIDのナンパリンディスプレイ (OSD) 操作 18 QSD (オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 QSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 QSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 QSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 Ficoro 20 Ficoro 20<
概要 5 機能 5 安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 要件 9 コンソール 9 コンビュータ 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 概要 12 与ックへの取り付け 12 与ックへの取り付け 12 与ックへの取り付け 12 「調査 11 据 12 「「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 「」 12 </th <td>概要 5 機能 5 安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 要件 9 コンピュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートするOS 9 サボートするOS 9 サボートするOS 9 サボートするOS 9 ウボーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据 12 「一個層の取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 単一階層の取け図 14 単一階層の取け図 14 単一階層の取け図 15 チェーン階層取り図 15 チェーン階層取り図 16 ケーブル長に関する注意車項 16 ホットブラグ 16 ホットブラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ボート目のオンバリンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要</td>	概要 5 機能 5 安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 要件 9 コンピュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートするOS 9 サボートするOS 9 サボートするOS 9 サボートするOS 9 ウボーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据 12 「一個層の取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 単一階層の取け図 14 単一階層の取け図 14 単一階層の取け図 15 チェーン階層取り図 15 チェーン階層取り図 16 ケーブル長に関する注意車項 16 ホットブラグ 16 ホットブラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ボート目のオンバリンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要
機能 .5 安全に関する重要な注意事項 .6 安全について .7 納品物の受け取り .8 同想部品の確認 .8 要件 .9 コンソール .9 コンビュータ .9 オンビュータ .9 サボートするOS .9 サーバーの最大接続数 .9 各部の構成 .10 前面 .10 背面 .11 据付 .12 標要 .12 ラックへの取り付け .12 ラックへの取り付け .12 ラックへの取り付け .12 東ックへの取り付け .12 ラックへの取り付け .12 ラックへの取り付け .12 ラックへの取り付け .12 ラックへの取け回 .14 単一階層の取付回 .14 単一階層の取付回 .14 複数の KVM スイッチの間階構造 .15 チェーン階層取付回 .15 チェーン階層取付回 .15 ケェーン階層取付回 .15 ボットブラグ .16 ホットブラグ .16 ボットブラグ .16 ホットブラグ<	機能 5 安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 周楣部品の確認 8 要件 9 コンソール 9 コンビュータ 9 サポートするOS 9 サポートするOS 9 サパーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 背面 11 据 11 据 12 「製要 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 単一階層の取け図 14 単一階層の取付回 14 単一階層の取付回 14 単一階層の取付回 15 チェーン階層取付回 15 ケェーン階層取付回 15 ケェーン階層取付回 15 ケェーン階層取付回 15 ケェーン階層取付回 15 ケェーン階層回取付回 16 ボットブラグ 16 ケェーン階層取したりとマットアップ 16
安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 同欄部品の確認 8 要件 9 コンソール 9 コンピュータ 9 KVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 振要 12 「タックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け 13 KVM の LCD コンソールへの取付 14 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の KVM スイッチの階層構造 15 ティン階層取付図 15 パーンデクをのとしたをマットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 17 ボート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 のSD (オンスクリーンディスプレイ)	安全に関する重要な注意事項 6 安全について 7 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 要件 9 コンワール 9 コンピュータ 9 ドバ州 サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 背面 11 据付 12 概要 12 ックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 KVM OLCD コンソールへの取付 (オプション) 13 KVM OLCD コンソールの取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付屋 14 複数の KVM スイッチのとりアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットラグ 17 ポート ID のナンバリンディスプレイ (OSD) 操作 18 <t< td=""></t<>
安全について 7 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 マ件 9 コンピュータ 9 ド(M サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 ウパーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据 12 ラックへの取け付け 12 ラックへの取け付け 12 ラックへの取け付け 12 ラックへの取け、背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付、(オプション) 13 W 一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付図 15 パード ロのナンバリンデッジ 16 ケーブル長に関する注意事項 17 ポットブラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ボート ロのナンバリンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 17 <td>安全について 7 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 要件 9 コンソール 9 コンビュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 マックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 単一階層のKVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 第 15 テェーン階層取付をセットアップするには 15 パードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 ポートロのナンバリンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 <</td>	安全について 7 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 要件 9 コンソール 9 コンビュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 マックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 単一階層のKVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 第 15 テェーン階層取付をセットアップするには 15 パードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 ポートロのナンバリンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 <
メニについて、 第 納品物の受け取り 8 同梱部品の確認 8 要件 9 コンピュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据 12 一次のの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け・背面 13 単一階層の取け図 14 車数の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取け図 15 パードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 ホットブラグ 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20	メニについて ・ ・ ・ 8 周樹部品の確認
mindbox() 和の、 0	
IDTM Britholy Market 9 コンソール 9 コンピュータ 9 KVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据 12 概要 12 ラックへの取り付け 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取けをセットアップするには 15 チェーン階層取付回 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOT0 20 <td< th=""><td>Information Market 9 コンソール 9 コンピュータ 9 ドバM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サポートする OS 9 ウボーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据要 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オブション) 13 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 塩数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 </td></td<>	Information Market 9 コンソール 9 コンピュータ 9 ドバM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サポートする OS 9 ウボーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据要 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オブション) 13 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 塩数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20
安什 9 コンピュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サポートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 背面 11 据付 12 一次の取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け付け 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチ取問層層構造 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 ケーブル長に関する注意事項 17 ボート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) のそ機能 20 F1:GOT0 20 <t< th=""><td>SHT 9 コンピュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 タ部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 概要 12 マックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 14 単一階層のKVM スイッチ取付 14 単一階層のKVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取けをセットアップするには 15 ケーブル長に関する注意事項 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ボート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20</td></t<>	SHT 9 コンピュータ 9 ドVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 タ部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 概要 12 マックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 14 単一階層のKVM スイッチ取付 14 単一階層のKVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取けをセットアップするには 15 ケーブル長に関する注意事項 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ボート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20
コンピュータ 9 KVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 サボートする OS 9 サボートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 10 青面 10 青面 10 青面 10 青面 11 据 11 据要 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け合す音面 13 KVM の LCD コンソールへの取付(オプション) 13 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 テェーン階層取付回 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 ボート ID のナンパリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能	コンピュータ 9 マンピュータ 9 KVM サーバーモジュールおよびケーブル 9 サポートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 前面 10 青面 11 据付 12 標要 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け 13 単一階層の取くM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 バードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能 20 F1:GOTO
コンビーション・ルおよびケーブル 9 サポートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 概要 12 ックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け・背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付(オプション) 13 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 第二ーン階層取付をセットアップするには 15 チェーン階層取付をセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 17 のSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	メン、ハサーバーモジュールおよびケーブル 9 サボートする OS 9 サボートする OS 9 サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 青面 11 据付 12 概要 12 「 12 「 12 概要 12 ックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 単一階層のKVM スイッチ取付 14 単一階層の取付回 14 単一階層の取付回 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 ボート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 のSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 FiligoT0 20
サポートする OS	サボートする OS
サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 背面 11 据付 12 概要 12 「報要 12 亨ックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 東一階層の取付図 14 第二の階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 パードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	サーバーの最大接続数 9 各部の構成 10 前面 10 背面 11 据付 12 概要 12 「報要 12 亨ックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け<1
各部の構成 10 前面 10 背面 11 据付 12 概要 12 「回 13 単一階層の取付回 13 単一階層の取付回 14 単 「回 「回 「回 パー 「日 「回 「回 パー 「日 「回 「回 「回 「回 「回 「	各部の構成 10 前面 10 背面 11 据付 12 概要 12 概要 12 「雪のの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 「雪の取りの取り 13 単一階層のKVMスイッチ取付 14 単一階層のKVMスイッチの階層構造 15 チェーン階層取け図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 17 パートロのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F1:COTO 20 Ta 20
1 1 前面 10 背面 11 11 11 据 12 概要 12 与ックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け - 背面 13 W/M の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の KVM スイッチの階層構造 14 車 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 ホットブラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	1 1 1 前面 11 前面 11 指付 12 概要 12 「 13 単 「 「 13 単 「 「 14 複数の KVM スイッチの間面の見 15 チェーン階層取付を 15 チェーン階層取付を 15 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 ホットプラグ 17 ボート ID のナンパリング・ 17
背面 11 据付 12 概要 12 幅 12 ッックへの取り付け 12 ラックへの取け-背面 12 ラックへの取付-背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の取付図 14 単一階層の取付図 14 第二>階層取付図 14 第二>階層取付図 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 ボートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	青面 11 据付 12 概要 12 「雪 12 「雪 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取ける 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け。 12 ラックへの取け。 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 14 単一階層の取付図 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 イードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ボート ID のナンパリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 FileOTO 20
据付	据付
描11 12 概要 12 幅 12 ラックへの取り付け 13 単一階層の取り 13 単一階層の取け図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンパリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET	描1) 12 概要 12 概要 12 概要 12 転要 12 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 」 」 」 」 」 、 、 、 、
概要 12 幅 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け - 背面 13 KVMのLCDコンソールへの取付(オプション) 13 単一階層のKVMスイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数のKVMスイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ボートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	概要 12 幅 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取付 - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 14 東一階層の取付図 14 東一階層取付図 14 ボード階層取付図 15 ハードウェアのセットアップするには 15 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 のSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
幅 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取け - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 アードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートID のナンパリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	幅 12 ラックへの取り付け 12 ラックへの取付 - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
ラックへの取付 - 背面 12 ラックへの取付 - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層のKVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付区 15 チェーン階層取付区 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 P1:GOTO 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	ラックへの取り付け 12 ラックへの取付 - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 ケーブル長に関する注意事項 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能 20 F1:GOTO 20
ラックへの取付 - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	ラックへの取付 - 背面 13 KVM の LCD コンソールへの取付 (オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
KVM の LCD コンソールへの取付(オプション). 13 単一階層の KVM スイッチ取付. 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造. 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	KVM の LCD コンソールへの取付(オプション) 13 単一階層の KVM スイッチ取付 14 単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
単一階層のKVMスイッチ取付. 14 単一階層の取付図 14 複数のKVMスイッチの階層構造. 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ. 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD)操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	単一階層のKVMスイッチ取付. 14 単一階層の取付図 14 複数のKVMスイッチの階層構造. 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 のSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造. 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	単一階層の取付図 14 複数の KVM スイッチの階層構造. 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットブラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 のSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 P1:GOTO 20 F1:GOTO 20
複数の KVM スイッチの階層構造. 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポート ID のナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	複数の KVM スイッチの階層構造. 15 チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ)の各機能 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	チェーン階層取付をセットアップするには: 15 チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	チェーン階層取付図 15 ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 F1:GOTO 20
ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	ハードウェアのセットアップ 16 ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	ケーブル長に関する注意事項 16 ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20
ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) のろち 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	ホットプラグ 16 電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) のちど (オンスクリーンディスプレイ) 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) のろり 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) の各機能 20 F1:GOTO 20 F2:LIST 21 F3:SET 22	電源オフおよび再起動 17 ポートIDのナンバリング 17 オンスクリーンディスプレイ (OSD) 操作 18 概要 18 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 18 のナビゲーション 19 OSD メイン画面の見出し 20 OSD (オンスクリーンディスプレイ) 20 F1:GOTO 20 F1:GOTO 20
ホードD のテラバリラグ オンスクリーンディスプレイ(OSD)操作	ホードD のテクバリクク オンスクリーンディスプレイ(OSD)操作
オンスクリーンディスプレイ(OSD)操作	オンスクリーンディスプレイ (OSD)操作
概要	概要
OSD(オンスクリーンディスプレイ) のナビゲーション	OSD(オンスクリーンディスプレイ) のナビゲーション
のナビゲーション	のナビゲーション
OSD メイン画面の見出し	OSD メイン画面の見出し
OSD(オンスクリーンディスプレイ)の各機能	OSD(オンスクリーンディスプレイ)の各機能
F1:GOTO	F1:GOTO
F2:LIST	FOLIOT
F3:SET	F2:LIST
	F3:SET
F4:ADM	F4:ADM
F5:5KF	F5:5KP
FU.DRU	FU.DRO
F7:SCAN 27	F8:LOGOUT
F7:00AN	F7.30AN

ホットキーの操作	28
ホットキーポート制御	28
Hotkey モードの起動...............................	28
[NUM LOCK] + [-]	. 28
[CTRL] + [F12]	. 28
Hotkey モードの環境	. 28
Hotkey モードの終了	. 28
有効なポートの選択方法	29
Auto Scan モードの切り替え	29
スキャン間隔の設定	. 29
日朝人キャンの起動 ら動ったわいの終了	. 29
	. 30
SKIP モートの切り省え	30
スイッシュートの開始 Skin モードの終了	. 30
$\neg \gamma P \neg - \varphi z - \overline{x} - \overline{v} / \overline{z} \neg \overline{z} $	30
コンピューアキャー $(\cdot, $	30
	31
	31
OSD Holkey の植の日かどの設定	31
	31
	22
	52
キーボードエミュレーション	33
Mac キーボード	. 33
Sun キーボード	. 34
ファームウェアアップグレー	
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ	35
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ	35 35
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに	35 35 37
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに	35 35 37 37
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに	35 35 37 37 37
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに	35 37 37 37 37 38
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに	35 37 37 37 37 38 38
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 ァップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元	35 37 37 37 37 38 38 38
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元	35 37 37 37 38 38 38 38
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに	35 37 37 37 38 38 38 38 38 38
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元	35 37 37 38 38 38 38 38 38 38 38 39
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 トラブルシューティング 概要 OSD の工場デフォルト設定	35 37 37 37 38 38 38 38 38 38 39 39
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの実行 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 B OSD の工場デフォルト設定 接続テーブル	35 37 37 38 38 38 38 38 39 39 39
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの実行 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 概要 OSD の工場デフォルト設定 接続テーブル KVM0108A	35 37 37 38 38 38 38 38 39 39 39 40 40
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 NB VOSD の工場デフォルト設定 接続テーブル KVM0108A KVM0116A	35 37 37 38 38 38 38 38 39 39 39 40 40 40
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの現行 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 トラブルシューティング 概要 OSD の工場デフォルト設定 接続テーブル KVM0108A KVM0116A	35 37 37 38 38 38 38 39 39 40 40 40
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの実行 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 せーバーモジュールト設定 KVM0108A KVM0116A	35 37 37 38 38 38 38 39 39 40 40 40 40
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 ァップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 N=フブルシューティング 概要 OSD の工場デフォルト設定 接続テーブル KVM0108A KVM0116A	35 37 37 38 38 38 38 39 39 40 40 40 40 40 41 42
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 ァップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 トラブルシューティング 概要 OSD の工場デフォルト設定 接続テーブル KVM0108A KVM0116A	35 37 37 38 38 38 38 39 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 アップグレードの開始 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 トラブルシューティング 概要 OSD の工場デフォルト設定 接続テーブル KVM0108A KVM0116A	35 37 37 38 38 38 39 39 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ はじめに アップグレードの実行 ァップグレードの実行 Upgrade succeeded Upgrade failed ファームウェアアップグレードの復元 メインボードのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元 は要 SD の工場デフォルト設定 接続テーブル KVM0108A KVM0116A 仕様 # 電波障害 # #	35 37 37 38 38 38 38 39 39 40 40 40 40 40 41 42 42 42 42 42
ファームウェアアップグレー ドユーティリティ	35 35 37 37 38 38 38 39 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40

KVM スイッチ KVM0108A および KVM0116A ユーザーズマニュアル

2年間の工場保証	
保証の条件	
第一購入者の保証	
適用除外	
保証の請求	
ワールドワイドカスタマサポー	۲





KVM0108AおよびKVM0116A KVMスイッチ

KVMスイッチを使用すると、管理者は1つのPS/2またはUSB KMM(キーボード、モニタ、およびマウス)コンソールから複数のサーバーにアクセスし管理することができます。ソフトウェアを設定する必要はありません。

製品型番	ローカル接続	リモート接続	KVMポート
KVM0108A	1	0	8
KVM0116A	1	0	16

- ・自動検出機能により、設置されている各ステーションの位置を認識するため、手作業で 位置を設定する必要がなくなり、前面パネルの LED に各ステーションの位置が表示さ れます。
- アップデートは、www.apc.com から入手できます。Firmware Upgrade 機能がインストールを実行します。

機能

- 簡単なインストールと操作:プラグアンドプレイインストール。ソフトウェアが不要。
 ステーション位置の自動認識。コンピュータの選択は、ホットキーまたは多言語対応の オンスクリーンディスプレイ(OSD)メニューを使用して行われます。
- 単一コンソールでの制御:1つの PS/2 または USB KMM(キーボード、モニタ、およびマウス)コンソールから最大8台(KVM0108A)または16台(KVM0116A)のサーバーにアクセスし管理することができます。
- 拡張性:最大 31 のスイッチに接続。KVM コンソールから最大 512 台(KVM0116A) のサーバーを管理。
- 簡単なインストール:ケーブルを該当するポートに接続。ソフトウェアを設定する必要 はありません。
- ハードウェアに依存しないクロスプラットフォームのサポート。
- RJ-45 コネクタおよび Cat 5e/6 の配線: KVM0108A または KVM0116A は、1U システムラックに設置可能。現代のほとんどの商業ビルの内部ネットワーク配線を利用。
- KVM アダプタケーブルをサーバーに接続。KVM スイッチとデバイスの接続に PS/2 および USB インターフェイスの混在が可能。
- 強力なパスワード保護により不正なアクセスを防止。
- ・複数のユーザーアカウント:最大10のユーザーと1つの管理者アカウント。
- 手間のかからないアップグレード: すべての KVM スイッチとサーバーモジュールを同時に連続してアップグレード。
- ・ 自動スキャンおよびブロードキャストモード:自動スキャンにより選択したデバイスを 簡単にモニタリングでき、スキャン間隔を変更可能。ブロードキャストモードにより、 コンソールからすべてのコンピュータにコマンドを送信。ソフトウェアのインストー ル、アップグレード、およびシャットダウンを同時に実行。
- 高品質ビデオ: KVM ケーブルアダプタによる最大解像度 1600x1200@60hz
 (最長 40 m)、および 1280x1024@75hz (最長 50 m)。
- ホットプラグ対応: KVM スイッチを電源オフにすることなくコンポーネントを追加および削除。
- IDによるサーバーモジュール(アダプタケーブル)の識別: KVM スイッチによる新しい KVM ケーブルアダプタの自動認識。デバイス ID および属性がアダプタケーブルに保存されることにより、属性を再設定することなくポート接続のホットスワップが可能。

安全に関する重要な注意事項

機器の設置、操作、修理または保守を行う前に作業手順をよく読み、機器についてよく理解しておいてください。本マニュアル全体、または機器に示される次の特別なメッセージは、危険性に関する警告を示します。または、手順を明確化/簡素化した情報への注意を促しています。



「危険」または「警告」安全ラベルにこの記号が追加されている場合は、注意事 項が遵守されない場合に人体への危害につながる感電の危険性があることを示 します。



これは注意記号です。人体への危害の危険性があることを警告します。この記 号に続くすべての安全警告に従って、人体への危害や死亡の危険性を回避して ください。



回避できない場合人体への危害や死亡の危険性がある、直ちに危険な状態を示します。



回避できない場合人体への危害や死亡の危険性につながるおそれがある、危険になりうる状態を示します。

▲ 注意

回避できない場合人体への危害や死亡の危険性につながるおそれがある、危険になりうる状態を示します。

注意

環境への被害、損害の危険性またはデータの損失などを含む物理的な損害に関わりのない、 注意事項を示します。

安全について

以下の説明をすべてお読みください。このマニュアルは後に参照できるよう保管しておい てください。機器に表示されているすべての警告および手順に従ってください。

▲危険
感電注意
 本製品を水の近くで使用しないでください。本製品に水をこぼさないように注 意してください。
 クリーニングを行う前に本製品の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。液体またはスプレー洗剤は使用しないでください。クリーニングには湿らせた布を使用してください。
 デバイスには、表示ラベルに記載されている電源タイプを使用してください。 使用可能な電源タイプがよく分からない場合は、販売店または地域の電力会社にお問い合わせください。
 ・設備の損傷を防止するには、すべてのデバイスが適切に接地されていることが 重要です。本製品は、3極接地タイププラグを備えています。これは安全のため の機能です。プラグをコンセントに差し込むことができない場合は、電気技術 者に依頼してコンセントを交換してください。接地タイププラグを本来の用途 以外に使用しないでください。必ず地域/各国の配線規定を順守してください。
 本製品に延長コードを使用する場合は、このコードで使用するすべての製品の アンペア定格の合計が、延長コードのアンペア定格を超えないようにしてくだ さい。コンセントに接続されているすべての製品の合計が15アンペアを超えな いようにしてください。
 ・電力の突然の一時的な増減から本機器を保護するには、サージ抑制器、ライン コンディショナ、または無停電電源装置(UPS)を使用してください。
 システムケーブルや電源ケーブルは気をつけて配置してください。ケーブルの 上に何も置かないように注意してください。
 絶対にキャビネットのスロットから物を中に押し込まないでください。物が危険な電圧部分に接触したり、部品がショートしたりして火災や感電の危険があります。
 このパッケージに同梱されている電源コードを使用してください。このパッケージに同梱されているコードを交換する必要がある場合は、元のコードと少なくとも同等の規格のコードを使用してください。電源コードの詳細については、販売店にお問い合わせください。
 お客様ご自身で修理を行わないでください。資格を持つ技術者に修理を依頼してください。
│ これらの指示手順に従わない場合、人体の重大な損傷または死亡につながる

おそれがあります。

▲注意
人身傷害または機器の破損
・"UPGRADE"のマークが付いたRJ-11コネクタを公共の通信ネットワークに接続
しないでください。
 ラックで作業する前には、スタビライザ等でラック床面に対して固定されていること、および床面にラックの全負荷がかかっていることを確認してください。 ラックで作業する前に、単独のラックには前面/側面スタビライザを、結合した複数のラックには前面スタビライザを取り付けてください。
・コンポーネントは常に下から、重いものから順にラックへ設置してください。
 ラックからデバイスを引き出す前に、ラックが水平であり固定されていること を確認してください。
 デバイスのレール開放ラッチを押してデバイスをラックから出し入れするとき は注意してください。スライドレールに指が挟まれるおそれがあります。
 デバイスをラックに挿入した後は、ロック位置までレールを延ばしてからデバ イスをラック内にスライドさせます。
 ラックに電源を供給するAC電源分岐サーキットが過負荷にならないようにして ください。ラック全体の負荷は分岐サーキット定格を超えてはいけません。
 電源ストリップやその他の電気コネクタを含むすべての機器が適切に接地されていることを確認してください。
・ラック内のデバイスに適切な風量が行き届いていることを確認してください。
 ラックの動作環境温度がメーカーによって指定された機器の最大環境温度を超えないように注意してください。
 ラック内のデバイスの修理中に、ほかのデバイスを踏んだりその上に立ったりしないでください。
 デバイスを不安定な場所に置かないでください。デバイスが落下した場合、重 大な損傷が発生します。
• 換気口を塞がないでください。内部コンポーネントが過熱する恐れがあります。
 電源コードやケーブルは、踏まれたりつまずいたりしないように配線してください。
これらの指示手順に従わない場合、人体の重大な損傷または機器の損傷につ ながるおそれがあります。

納品物の受け取り

納品時に各コンポーネントを検査し、すべての部品が揃っていて良好な作動状態であることを確認してください。足りない物があった場合や損傷した物があった場合は、直ちに運送会社とAPCに連絡してください。

同梱部品の確認

- ・1 KVM0108A または KVM0116A KVM スイッチ
- 1ファームウェアアップグレードケーブル
- 1 NEMA 5-15 電源コード 1 C13 ~ C14 電源コード
- ・1 ラックマウントブラケット
- ・マニュアル類 : クイックスタートガイド、安全シートおよび China ROHS

要件

 ご使用の設定環境で使用するコンピュータの最高解像度要件に対応する VGA、SVGA、 またはマルチシンクモニタ。

• PS/2 または USB マウス / キーボード

コンピュータ

以下の機器をKVMスイッチポートに接続するサーバーに取り付ける必要があります。

- VGA、SVGA、またはマルチシンクポート
- ・タイプ A USB ポートおよび USB ホストコントローラ
- ・または6ピンのミニ DIN キーボードおよびマウスポート

KVMサーバーモジュールおよびケーブル

2

備考:KVMサーバーモジュールは、アダプターケーブルと呼ばれることもあります。

- KVM スイッチを KVM アダプタケーブルに接続するには、Cat 5e/6 ケーブルが必要です。
- ・以下の KVM アダプタケーブルが、KVM スイッチを使用するために必要です。

モジュール	機能
KVM-PS2	PS/2 ポートでデバイスを接続
KVM-USB	USB ポートでデバイスを接続
AP5262	APC KVM チェーンイン / アウトケーブル - 2 ft (0.6 m)
AP5263	APC KVM チェーンイン / アウトケーブル - 6 ft (1.8 m)



サポートするOS

- Microsoft Windows
- Linux
- UNIX
- Mac
- DOS

サーバーの最大接続数

ベースステーション KVMモデル	ポート	チャイルド KVMの階層構造	ポート	最大接続数(階層構造)	チェーン接続
KVM0108A	8	KVM0108A	8	265	32
KVM0116A	16	KVM0216A	16	512	32

各部の構成

前面



番号	構成部品	説明
0	Power LED	この LED が点灯しているときは、KVM スイッチに電源が投入され動作可能な状 態であることを示します。
0	ポートLED	 ポートLEDには、対応するKVMポートに関するステータス情報が表示されます。 ・緑:ポートに接続されているサーバーがオンラインであることを示します。 ・赤:ポートに接続されているサーバーが選択されている(KVM フォーカスがある)ことを示します。 ・緑 + 赤(オレンジ):ポートに接続されているサーバーがオンラインであり、 選択されていることを示します。 このLEDは通常の状態で常時点灯します。対応するポートがAuto Scan モード またはSkip モードでアクセスされている場合は、0.5 秒の間隔で点滅します。
6	ファームウェ アアップグ レード復元ス イッチ	通常運転中およびファームウェアアップグレード中は、このスイッチは「正常」 位置にあります。ファームウェアアップグレード操作が正常に完了していない場 合は、このスイッチはファームウェアアップグレードの復元を実行するために使 用します("ファームウェアアップグレー ドユーティリティ" on page 35 を参 照)。
4	リセッ トスイッチ	このスイッチは埋め込み式になっており、ペーパークリップやボールペンなどの 先の細い物で押す必要があります。システムリセットを実行するには、ユニット の動作中に押して放します。 注意:これによりユーザーアカウント情報が消去されることはありません。
6	Station ID LED 表示	 KVM スイッチのステーション ID がここに表示されます。このステーションが単 ーステーション構成または設定環境における最初のステーションである場合は、 KVM スイッチ ID は「01」になります。 階層構成の場合は、KVM スイッチはステーションの位置を自動検出し、設定環 境におけるステーションの位置に対応するステーション ID を表示します("ポー ト ID のナンバリング" on page 17 を参照)。
6	ファームウェ アアップグ レードポート	管理者のコンピュータから KVM スイッチにファームウェアアップグレードデー タを転送するファームウェアアップグレードケーブルは、この RJ-11 コネクタに 接続します。
0	コンソール ポート	このポートは、ラック LCD コンソール AP5717 または AP5719 を使用する設定 環境で使用します。

背面



項目	構成部品	説明
0	電源ソケット	AC 電源への電源コードはここに接続します。
0	チェーンイン/ アウトポート	KVM スイッチをカスケード接続する場合は、ケーブルをここに接続します (" 複数の KVM スイッチの階層構造 " on page 15 を参照)。 左側のポートは、チェーンインポートであり、右側のポートはチェーンアウ トポートです。
€	KVM ポート の選択	KVM アダプタケーブル(コンピュータに接続)に接続する Cat 5e/6 ケーブ ルは、ここに接続します。
4	コンソール ポート	このステーションが単ーステーション構成である場合、または階層構成にお ける最初のステーションである場合は、ローカルコンソールを構成するキー ボード、モニタ、およびマウスは、ここに接続します。 コンソールでは PS/2 および USB キーボードおよびマウスの任意の組み合わ せが使用できます。



KVMアダプタケーブルは、KVMスイッチを接続されたデバイスに切り替えます。各コン ピュータまたはデバイスの接続には、個別にKVMアダプタケーブルが必要です。

"KVMサーバーモジュールおよびケーブル" on page 9を参照するか、APCカスタマサポート にお問い合わせください。

注意:1.KVMスイッチを取り付ける前に、"安全について" on page 7を参照してください。 2.接続前にすべての機器の電源をオフにします。キーボード電源オン機能があるすべての コンピュータの電源コードを外します。

幅

注意: 十分な換気のために両側に少なくとも2インチ(5.1 cm)の隙間をあけ、電源コード およびケーブルのクリアランスのために後側に5インチ(12.7 cm)の隙間をあけます。

スイッチは、19"(1U) ラックに取り付けることができます。取付ブラケットは、ラックの 前面または背面に取り付けられるようにユニットの前面または背面にネジで固定すること ができます。

注意:標準的なラックマウントキットパッケージには、ラック取付ネジまたはケージナットは含まれません。追加のラック取付ネジまたはケージナットが必要な場合は、ラック販売店にお問い合わせください。ネジが付いていないラックの場合は、ケージナット(製品には含まれません)を使用します。

ラックへの取り付け

- スイッチをラックの前面に位置 決めします。取付ブラケットの 穴とラックの穴を合わせます。
- 取付ブラケットをネジ(製品に は含まれません)でラックに固 定します。



ラックへの取付 - 背面

1. KVM スイッチの前部からブラケッ トを取り外します。



3. スイッチをラックの中にスライド させます。取付ブラケットの穴と ラックの穴を合わせます。

す。

4. 取付ブラケットをラック背面に固 定します。

KVMのLCDコンソールへの取付(オプション)

KVMスイッチは、ラックLCDコンソール(別売りオプション)に取り付けることができま す。詳細については、ラックLCDコンソールKVMスイッチブラケットキットの取付シート を参照してください。

単一階層のKVMスイッチ取付

- 単一階層構成では、KVMスイッチからの階層を構成する追加のKVMスイッチはありません。ケーブル長の要件については、"ケーブル長に関する注意事項" on page 16を参照して ください。
 - コンソールキーボード、モニタ、およびマウスをスイッチのコンソールポートに接続 します。各ポートは色分けされ、容易に識別できるようにアイコンが付けられていま す。

注意: 1. キーボードおよびマウス接続の任意の組み合わせが使用できます。たとえば、 PS/2 キーボードは USB マウスと共に使用することができます。

- Cat 5e/6 ケーブルを使用して、インストールするコンピュータに適した KVM サーバー モジュールを使用可能な KVM ポートに接続します("KVM サーバーモジュールおよび ケーブル" on page 9 を参照)。
- 3. KVM アダプタケーブルのコネクタを該当するサーバーポートに接続します。
- 4. 同梱の電源コードをスイッチの電源ソケットに差し込み、次に AC 電源に接続します。
- 5. サーバーの電源を入れます。

単一階層の取付図



複数のKVMスイッチの階層構造

さらに多くのコンピュータ(最大31台)に接続するには、追加のKVMスイッチを元のKVM スイッチからの階層構成にすることができます。最大512台のコンピュータの設定環境全体 を1つのコンソールから管理することができます。

階層構成で設置できるスイッチのリストや、コンピュータの台数とそれを制御する必要のあるKVMスイッチ数との関係については、"接続テーブル" on page 40を参照してください。

チェーン階層取付をセットアップするには:

- ケーブルセットを使用して親 KVM スイッチのチェーンアウトポートを子 KVM スイッ チのチェーンインポートを接続します(第一階層の出力を第二階層の入力へ接続し、 第二階層の出力を第一階層の入力に接続するなど)。
 注意:1.第一階層は最上位階層(親)スイッチであるため、第一階層のチェーンイン ポートは使用できません。
 2. チェーン階層用ケーブルセットは別売りオプションになります。
- 2. ケーブルを、単一階層構成に従ってコンピュータとスイッチに接続します("単一階層の KVM スイッチ取付" on page 14 を参照)。
- チェーンに追加する必要のあるその他のスイッチについても、上記の手順を繰り返します。
- 4. 以下の手順に従って、設置したシステムに電源を投入します。
 - a. 第1階層スイッチの電源コードを接続します。ユニットがステーション ID を確認 し、ステーション ID LED にそれが表示されるまで待ちます(第1階層のステー ション ID が 01、第2階層ユニットの ID が 02、第3階層ユニットの ID が 03 な ど)。
 - b. 設置システムの各階層ごとに順に電源オンにします(第2階層、第3階層など)。 各段階で、次の階層のスイッチの電源をオンにする前に、ステーション ID が確認 され、LED に表示されるのを待ちます。
 - c. すべての KVM スイッチが作動状態となった後で、各コンピュータへ電源を投入します。

チェーン階層取付図



ハードウェアのセットアップ

ケーブル長に関する注意事項

注意:KVMサーバーモジュールは、KVMアダプタケーブルとも呼ばれます。

- スイッチとローカルモニタとの間の距離は66フィート(20m)を超えないようにして ください。
- 1280x1024の解像度をサポートするため、KVM スイッチと KVM サーバーモジュール 間の推奨最大距離は 164 フィート(50m)です。

ホットプラグ

コンポーネントは、シャットダウンせずにプラグを抜き差しして削除および追加すること が可能です。

古い親KVMスイッチから接続を外し、新しい親KVMスイッチに接続することにより、KVM スイッチの位置を変更します。その後、OSDメニューに変更を反映するため、OSDをリ セットします。"ステーションIDのリセット" on page 25を参照してください。

KVMポートのホットプラグ: KVMポートを切り替えた後に、OSDメニューに変更を反映 するために、新しいポート情報に関するOSD情報の再設定が必要になる場合があります。 ポート名、OS、およびキーボード言語の設定は、以前に使用したアダプタケーブルから (ケーブルを接続した後に) KVMスイッチに復元されます。"F3:SET" on page 22を参照し てください。また、ポート設定の選択については、"F4:ADM" on page 24を参照してくださ い。

注意:1.コンピュータのOSがホットプラグをサポートしていない場合は、この機能は正常 に動作しません。 2.以前にサーバーモジュールに接続されていた空きポートは、以前の設定データを保持し ます。

ホットプラグコンソールポート:キーボード、モニタ、およびマウスはホットプラグが可能です。ただし、マウスのホットプラグを行う場合は、以下の点に注意してください。

- マウスの接続を外した場合は(たとえば、マウスをリセットするためなど)、再び接続 するときに前と同じマウスを使用する必要があります。
- 別のマウスを接続する場合は、設定環境のすべての KVM スイッチとすべてのコン ピュータを 10 秒間シャットダウンしてから再起動する必要があります("電源オフお よび再起動" on page 17 を参照)。
- 古い OS では、ホットプラグをサポートしていない場合があります。
- **注意**:万一、ホットプラグ後に(または別の時に)キーボードおよび/またはマウスの 入力に応答がない場合は、リセットスイッチを押してキーボードおよびマウスのリセッ トを実行します。" リセッ トスイッチ " on page 10 を参照してください。

電源オフおよび再起動

KVMスイッチの電源オフが必要な場合、またはスイッチの電源が遮断され再起動が必要な 場合は、再起動を行う前に、機器の障害を防ぐために以下の手順に従ってください。

1. Cat 5e/6 ケーブルアダプタ(サーバーを接続する)を KVM スイッチの背面から取り外 します。

注意: 1.PS/2 サーバーモジュールがサーバーから取り外された場合は、サーバーを再 起動してマウスおよびキーボードの接続を再確立する必要があります。 2. キーボード電源オン機能があるすべてのコンピュータの電源コードを外します。

- 2. 10 秒間待ってから、KVM スイッチの電源をオンにします。複数の KVM スイッチを シャットダウンした場合は、最上位階層の電源を最初にオンにし、順次、下の階層の 電源をオンにしていきます。次の階層の電源をオンにする前に、各 KVM スイッチが 前面パネルの LED にステーション ID を表示するまで待ちます。
- すべての KVM スイッチの電源がオンになった後で、Cat 5e/6 ケーブルを接続するか、 コンピュータの電源をオンにします。

ポートIDのナンバリング

各コンピュータにはインストール時に一意のポートIDが割り当てられています。ポートID は、コンピュータに接続されているスイッチの階層とポート番号によって決定される、1つ または2つのセグメント番号です。

最初のセグメントはスイッチの階層を示し、2番目のセグメントはコンピュータが接続されているポートの番号を示します。たとえば、階層の12番目の位置にあるスイッチのKVMポート3にコンピュータが接続されている場合は、ポートIDは12-03になります。

注意:一桁の数字(1~9)は、前にゼロ(0)がつきます。

オンスクリーンディスプレイ(OSD)操作



オンスクリーンディスプレイ (OSD) は、メニューを使用してコンピュータの制御および 切り替え操作を行います。すべての手順は、OSDメイン画面から開始します。メイン画面 を表示するには、OSDホットキーを2回タップします。デフォルトのホットキーは[Scroll Lock]です。ホットキーは、[CTRL]キーまたは[ALT]キーに変更できます("OSDホットキー" on page 22を参照)。

注意:1.[CTRL]または[ALT]キーが使用されている場合は、もう一度同じ[CTRL]または[ALT] キーを押す必要があります。 2.Num LockとCaps Lockは、OSDの実行中は常にオンになります。

OSDでは、2段階(管理者/ユーザー)のパスワードシステムを使用します。OSDメイン画 面を開くには、有効なユーザー名およびパスワードが必要です。最初にOSDにアクセスし た時は、デフォルトのユーザー名(apc)とパスワード(apc)が使用されます。セキュリ ティ上の理由から、最初にログインした後で、デフォルトのユーザー名とパスワードは独 自のものに変更してください。

	ENT	ER	NAME	AND	PASSWORD
US	ERN	AME			
PA	SSV	VORD			

デフォルトのユーザー名とパスワードでログインした場合、OSDメイン画面は「管理者」 モードで開きます。管理者は、すべての管理者およびユーザー機能にアクセスでき、操作 をセットアップすることができます(その後のパスワード認証を含む)。

OSDメイン画面「管理者」モード



注意:1.ユーザーメイン画面では、F4およびF6機能は表示されません。これらの機能は管理者専用で、一般ユーザーはアクセスできません。

2.管理者が「アクセス可能」に設定したポートのみが、ユーザーメイン画面に表示されます。"アクセス可能なポートの設定" on page 24を参照してください。

OSD(オンスクリーンディスプレイ) のナビゲーション

- OSD を終了するには、OSD ウィンドウの右上隅にある "X"(Close)を押すか、または [Esc] キーを押します。
- ログアウトするには、F8 を押すか、またはメイン画面の上部にある "ZZZ" 記号を押します。
- 特定のステーションのポートを表示するには、ステーション番号の前にあるプラス記号
 [+]を押します。ポート番号リストが開きます。リストを閉じるには、ステーション番号の前にある円記号 [0]を押します。
- リスト内で上下方向に一行ずつ移動するには、上下方向の三角形の記号を押すか、 または、上下方向の矢印キーを使用します。メイン画面の1画面に収まらないリストエントリがある場合は、リストがスクロールします。
- 一度に1画面分のリストを上下に移動するには、上下方向の矢印記号を押すか、
 [PAGE UP] および [PAGE DOWN] キーを使用します。メイン画面の1画面に収まらないリストエントリがある場合は、画面がスクロールします。
- ポートにフォーカスするには、ポートをダブルクリックするか、またはハイライトバー をポートに移動して [ENTER] を押します。
- ・いずれの操作を実行した後も、自動的に1階層上のメニューに戻ります。

OSDメイン画面の見出し

項目	説明
SN-PN	この列には、設置されているすべての KVM ポートのポート ID 番号 (ステーション番号 - ポート番号)のリストが表示されます。特定の コンピュータにアクセスする最も簡単な方法は、コンピュータをダ ブルクリックするか、またはハイライトバーをコンピュータに移動 して [ENTER] を押します。
QV	ポートが Quick View スキャンに選択されている場合は、この列に矢 印が表示されます。
太陽の形の記号	電源がオンでオンラインのコンピュータは、この列に太陽の形の記 号が表示されます。
Name	ポートに名前がある場合は、この列にポート名が表示されます。

OSD(オンスクリーンディスプレイ)の各機能

OSDの各機能は制御および設定に使用されます。OSD機能にアクセスするには:

- メイン画面上部にあるファンクションキーをクリックするか、またはキーボードの ファンクションキーを押します。
- ダブルクリックするか、またはサブメニューの選択項目の上にハイライトバーを移動 して開き、[ENTER]を押します。
- 3. [Esc] キーを押して前のメニュー階層に戻ります。

F1:GOTO



GOTO機能を使用して、ポート名またはポートIDを入力してポートに直接切り替えます。

- ・名前を入力する方法を使用するには、"1"、ポート名を入力し、[ENTER]を押します。
- ・ポート ID を入力する方法を使用するには、"2"、ポート ID を入力し、[ENTER] を押しま す。

注意:名前またはポートIDの一部を入力することもできます。現在のリスト設定に関わり なく、名前またはポートIDパターンに一致する、ユーザーがView権限をもつすべてのコン ピュータが画面に表示されます。

・選択を行わずに OSD メインメニューに戻るには、[Esc] キーを押します。

F2:LIST

スイッチのOSD機能の多くは、現在選択されているコンピュータでメイン画面のリストの 操作のみを行います。この機能を使用して、リストに表示されるポートの範囲を拡大また は縮小します。



リスト	説明
全機種	設置されているすべてのポートがリストに表示されます。
Quick View	Quick View ポートとして選択されているポートのみがリストに表示されます。
Powered On	電源オンのコンピュータに接続されているポートのみがリストに表示 されます。
Quick View + Powered On	Quick View ポートとして選択され、電源オンのコンピュータに接続されているポートのみがリストに表示されます。

ハイライトバーを目的のリストに移動し、[ENTER]を押します。リストの前にアイコンが表示され、リストが現在選択されていることを示します。

F3:SET



管理者および各ユーザーは、個々の作業環境をセットアップすることができます。各オペレータに対する個々のプロファイルがOSDによって保存され、ログイン時に提示されるユーザー名に従って有効化されます。

設定を変更するには:

- 1. 設定をダブルクリックするか、またはハイライトバーを設定に移動し、[ENTER]を押し ます。
- 2. 項目を選択すると、詳細な選択項目を含むサブメニューが開きます。選択を行うには、 選択項目をダブルクリックするか、またはハイライトバーを選択項目に移動して [ENTER]を押します。選択された項目の前にアイコンが表示されます。

設定	機能
OSD ホット	以下の OSD 機能を有効にするホットキーを選択します。[SCROLL LOCK] [SCROLL LOCK]; [CTRL] [CTRL] または [ALT] [ALT].
+	[CTRI] または [ALT] キーの組み合わせがコンピュータで実行中のプログラムと競合する 場合があるため、デフォルトでは [SCROLL LOCK] との組み合わせが使用されます。
ポート ID の表 示位置	モニタ上のポート ID の位置デフォルトでは左上隅に表示されます。位置を変更する方法は次のとおりです。マウスまたは矢印キーに加え、PAGE UP、PAGE DOWN、HOME、 END、および5(数字キーパッドで NUM LOCK をオフ)を使用してポート ID 表示の位置を変更してから、[ENTER]を押して位置を固定し、Set サブメニューに戻ります。 注意:この設定は現在選択されているポートにも反映されます。各ポートの設定を個別に変更します。
ポート ID の表 示時間	ポート変更を行った後にモニタにポート ID を表示する時間の長さを指定します。 次の 2 つが選択できます。3 秒間表示とオフ(非表示)。
ポート ID 表示 モード	次のポート ID の表示方法を選択します。ポート番号のみ(PORT NUMBER)、ポート名のみ(PORT NAME)、またはポート番号 + ポート名(PORT NUMBER + PORT NAME) デフォルトは、PORT NUMBER + PORT NAME です。
スキャン時間	Auto Scan モードで選択されたポートを切り替えながら各ポートにかける時間の長さを 指定します。1 ~ 255 秒の値を入力してから、[ENTER] を押します。 デフォルトは 5 秒です。0(ゼロ)に設定するとスキャン機能が無効になります。

	Skip モードと Auto Scap モードでアクセスするコンピュータを選択します。 次のいずれ
	onp こ PC Auto ocall こ PC アクビス するコンビュ クを送訳します。 へのいうれ かを選択します。
	•ALL - 設定されているすべてのポートにアクセス可能
Scan/Skip	•QUICK VIEW - 「Accessible」に設定され、「Quick View Ports」として選択されているポートのみ
±-r	•POWERED ON - 「Accessible」および「Powered On」に設定されているポートのみ
	・QUICK VIEW + POWERED ON - 「Accessible」に設定され、「Quick View Ports」お よび「Powered On」として選択されているポートのみ
	「の機能で設定された時間が過ぎてもついいールから入力がたい場合け」画面が非実示
スクリーンブラ ンカ	この機能で設定された時間が過さてもコンクールがらハカがない場合は、画面が非なが になります。1 ~ 30 分の値を入力してから、[ENTER]を押します。0(ゼロ)に設定す るとこの機能が無効になります。デフォルトは「OFF」です。
Hotkey Command モード	コンピュータで実行中のプログラムと競合が発生した場合に、Hotkey 機能を有効化 / 無 効化します(" ホットキーの操作 " on page 28 を参照)。デフォルトは「ON」です。
	ホットキー起動キーを選択します("ホットキーの操作" on page 28 を参照)。
***	[[NOM LOCK] + [-] よたは [CIRL] + [F12] を選択 くさより。デフォルトは [NUM LOCK] + [-] です。
OSD の言語設	
定	OSD ディスプレイの言語を設定します。デフォルトは「English」です。
コンソールキー ボードの設定	コンソールキーボードのキーボード言語マッピングを設定します。デフォルトは 「Auto」です。スイッチがキーボードから自動的に言語マッピングを受信しない場合は、 英語(米国)に設定されます。
ログアウトタイ ムアウトの設定	この機能で設定された時間が過ぎてもコンソールから入力がない場合は、オペレータは 自動的にログアウトになります。コンソールを再び使用するにはログインが必要です。 これにより、元のオペレータがログアウトし忘れてコンピュータにアクセスしていない ときに他のオペレータがコンピュータにアクセスすることができます。タイムアウト値 を設定するには、1~180分の数字を入力し、[ENTER]を押します。数字が0(ゼロ)の 場合は、この機能は無効になります。デフォルトは「Off」です。
	注意 :Set Login モードが無効になっている場合は、この機能は機能しません (page 25 を参照)。
ビープ音の 有効化	[Y](はい)または [N](いいえ)を選択します。この機能を有効にすると、ポートが変 更された時や、Auto Scan 機能を起動した時、または OSD メニューで無効な入力が あった場合にビープ音が鳴ります。デフォルトは「ON」です。
	管理者は、Quick View ポートとして含めるポートを選択することができます。
Quick View ポートの設定	Quick View ポートとしてポートを選択 / 選択解除するには、ナビゲーションキーを使用 してハイライトバーを選択項目に移動し、[スペースバー]を押します。ポートが Quick View ポートとして選択されている場合は、メイン画面のリストの QV 列に矢印が表示さ れ、選択されていることを示します。ポートの選択を解除すると、矢印は消えます。 Quick View オプションの1つをリスト表示に選択した場合、ここで選択したポートのみ がリストに表示されます。Quick View オプションの1つを自動スキャンに選択した場 合、ここで選択したポートのみが自動スキャンされます。
	/ / / / / こは小 - この四八に40の に/00

F4:ADM

F4の機能は管理者のみが使用できます。この機能にアクセスすることにより、管理者は OSDの操作全体を設定および管理することができます。設定を変更するにはダブルクリッ クするか、または上下方向の矢印キーを使用してハイライトバーを設定に移動し、[ENTER] を押します。



項目を選択すると、詳細な選択項目を含むサブメニューが開きます。選択項目をダブルク リックするか、またはハイライトバーを選択項目に移動し、[ENTER]を押します。選択され た項目の前にアイコンが表示されます。

設定	機能
	この機能は、管理者およびユーザー名とパスワードを設定するために使用します。 管理者パスワード1つとユーザーパスワード10を設定できます。
ユーザーアカウント の設定	管理者フィールドまたはユーザーフィールドの1つを選択すると、ユーザー名とパ スワードを入力できる画面が開きます。ユーザー名とパスワードは最大長が16文字 までで、任意の文字と数字(A-Z、0-9)で構成できます。各ユーザーごとに、ユー ザー名とパスワードを入力し、[ENTER]を押します。
	以前のユーザー名またはパスワードを変更または削除するには、バックスペース キーを使用して文字または数字を消去します。太陽の形のアイコンは、アカウント にデータが保存されていることを示します。
	この機能により、管理者はポートごとに設置されているコンピュータへのユーザー アクセスをポートごとに定義することができます。
アクセス可能なポー トの設定	各ユーザーごとに、ターゲットポートを選択し、[スペースバー]を押して以下の選 択項目を切り替えます。F(フルアクセス)、V(表示のみ)、またはN(アクセスな し)すべてのアクセス権が設定されるまで上記の手順を繰り返してから、[Esc]を押 します。デフォルトでは、すべてのユーザーに対してすべてのポートで「F」に設定 されています。
	注意 :「N」設定は、アクセス権が何も許可されていないことを意味します。 このポートは、メイン画面のユーザーのリストには表示されません。

	特定のポートにどのコンピュータが接続されているかを識別するために、各ポート に名前を割り当てることができます。この機能により、管理者はポート名を作成、 変更、または削除することができます。
ポート名の編集	ポート名を割り当てるには:ポートをクリックするか、またはナビゲーションキー を使用してハイライトバーをポートに移動し、[ENTER] を押します。新しいポート名 を追加、または古いポート名を変更 / 削除します。ポート名の使用できる最大文字 数は 14 です。使用可能な文字には、すべてのアルファベット文字:A-Z および数 字:
	0-9 が含まれます。 ポート名は大文字でも小文字でも入力できますが、OSD ではポート名は大文字でし か表示されません。
	編集が完了したら、[ENTER]を押して変更を反映させます。変更を中止するには、 [Esc] キーを押します。
デフォルト値に戻す	この機能は、Names 設定を除くすべての変更を取り消し、元の工場デフォルト設定 に戻します。各ポートに割り当てられた Names 設定は保存されます。
名前リストのクリア	この機能は、ポート名のリストをクリアします。
	チェーンでのステーションの1つの位置が変更された場合、OSD 設定は新しいセットアップに対応しなくなります。
ステーション ID の リセット	この機能は、OSDに対して設定環境全体のステーションの位置を再スキャンするように命じ、OSDステーション情報が新しい物理レイアウトに対応するようにOSDを更新します。
	注意 :ステーション名のみが更新されます。ポート名を除き、変更によって影響を 受けるすべてのコンピュータに関するすべての管理者設定(Set Accessible Ports、 Set Quick View Ports など)を手作業でやり直す必要があります。
OS の設定	各ポートに接続されているコンピュータのオペレーティングプラットフォームを指定します。設置されている各ポートごとに設定する必要があります。各ポートごとに、[スペースバー]を押して選択項目(PC、Mac、または Sun)を切り替えます。 すべてのポートが設定されるまで上記の手順を繰り返してから、[Esc]を押します。 デフォルトは「PC」です。
	注意 :コンピュータが接続されているポートに正しい OS が設定されていない場合は、Sun または Mac コンピュータは、初回起動時に起動しない場合があります。
	ポートと KVM アダプタケーブル間の Cat 5e/6 ケーブルの長さを指定します。 [スペースバー]を押すと、ケーブル長の設定が切り替わります。
Cat 5 の長さの設定	•S: 短 - 最大 25 m まで •M: 中 - 20 m ~ 35 m
	S、M、L はポートの横に表示され、選択されたケーブル長を示します。
キーボードの言語設 定	各ポートに接続されたコンピュータのキーボード言語のレイアウトを設定します。 [ス ペースバー]を押すと、選択項目が切り替わります。デフォルトは「英語」(米 国)です。
	KVM スイッチとアダプタケーブルファームウェアをアップグレードするには ("ファームウェアアップグレー ドユーティリティ" on page 35 を参照)、最初に
ファームウェアアッ プグレード	Firmware Upgrade モードをこの設定と共に有効にする必要があります。現在の ファームウェアバージョンレベルがメニューに表示されます。[Y] を選択すると、 Firmware Upgrade モードが有効になります。または、[N] を選択すると、 Firmware Upgrade モードを有効にしないでこのメニューを終了します。
アダプタアップグ レード	このファンクションにより、管理者は KVM アダプタケーブルのファームウェア バージョンを確認できます。現在のファームウェアバージョンレベルがメニューに 表示されます。
ログインモードの設 定	この機能により、管理者はユーザーにログインを要求する、またはログインを要求 しないことができます。ログインダイアログボックスが無効になっている場合は、 システムによってログイン/ログアウト機能が無効化されています。システムが再 起動した場合は、ログイン/ログアウト機能は無効になります。

F5:SKP

後または前に移動して、現在アクティブなKVMポートから前または次に使用可能なポート にコンソールフォーカスを切り替えます。

- Skip モード切り替えで使用可能なコンピュータの選択は、F3:SET 機能の Scan/Skip モードの設定を使用して行います。
- ・ Skip モードにしてから、
 - 左矢印を押すと、リスト内の前のポートに移動します。
 - 右矢印を押すと、リスト内の次のポートに移動します。
 - 上矢印を押すと、リスト内の前のステーションの最後のポートに移動します。
 - 下矢印を押すと、リスト内の次のステーションの最初のポートに移動します。 **注意**:スキップを行う場合、Scan/Skip モード選択項目に入っている使用可能な前また は次のコンピュータにのみ移動します("Scan/Skip モード" on page 23 を参照)。
- ・ポートが Scan/Skip モードに選択されている場合、フォーカスがそのポートに切り替わった時に、左 / 右向きの三角形の記号がポート ID 表示の前に表示されます。
- Skip モードが有効になっている間は、コンソールは通常の時のように機能しません。
 コンソールのコントロールを元に戻すには、Skip モードを終了する必要があります。
- Skip モードを終了するには、[スペースバー] または [Esc] キーを押します。

F6:BRC

F6の機能は管理者のみが使用できます。この機能が有効になっている時、コンソールから 送られたコマンドは設置されているすべての使用可能なコンピュータにブロードキャスト されます。

この機能は、複数のコンピュータで実行する必要のある操作を行う場合に便利です(シス テム全体のシャットダウンの実行やソフトウェアのインストールまたはアップグレードな ど)。

BRCは、F2:LIST機能と連動しています。List機能("F2:LIST" on page 21を参照)は、 OSDメイン画面上に表示されるポートのフォーカスを拡大または縮小するために使用され ます。コマンドをブロードキャストする場合は、OSDメイン画面上に現在表示されている ポートに対して行われます。

- BRC モードが有効になっている間、スピーカの記号が現在コンソールフォーカスがあるポートのポート ID 表示の前に表示されます。
- BRC モードが有効になっている間は、マウスは通常の時のように機能しません。マウ スのコントロールを元に戻すには、BRC モードを終了する必要があります。
- BRC モードを終了するには、OSD を起動し(OSD ホットキーを使用)、次に F6 フィールドをクリックするか、[F6] を押します。

F7:SCAN

この機能は、一定の間隔で使用可能なコンピュータ間を自動的に切り替えるため、各コン ピュータを手動で切り替えることなくそれぞれの動作を監視することができます。

- ・自動スキャンモードに含まれるコンピュータの選択は、F3:SET 機能("F3:SET" on page 22 を参照)の Scan/Skip モードの設定を使用して行います。
- 各ポートが表示される時間の長さは、F3:SET 機能("F3:SET" on page 22 を参照)の Scan Duration の設定を使用して設定されます。
- 各コンピュータがアクセスされると、ポート ID 表示の前に「S」が表示され、そのポートが Auto Scan モードでアクセスされていることを示します。
- Auto Scan モードの間、特定のコンピュータへのフォーカスを維持するために、[P]を押すか、またはマウスの左クリックを使用してスキャンを一時停止することができます。 スキャンを再開させるには、任意のキーを押すか、もう一度左クリックします ("Auto Scan モードの切り替え" on page 29 を参照)。
- Auto Scan モードが有効になっている間は、コンソールは通常の時のように機能しません。Auto Scan モードを終了し、コンソールのコントロールを元に戻します。
- Auto Scan モードを終了するには、[スペースバー] または [Esc] キーを押します。

F8:LOGOUT

F8フィールドをクリックするか、または[F8] キーを押して、OSDをログアウトしてコン ソール画面を非表示にします。この操作は、[Esc]キーを押してメイン画面からOSDを無効 にするのとは異なります。

この機能では、OSDに再びアクセスするには初めからログインをやり直す必要があります。 ([Esc]キーを押した場合は、OSDホットキーをタップするだけで、OSDに再びアクセスす ることができます。)

注意:1.ログアウトした後でOSDに再びアクセスする場合は、ログインダイアログボック スを除き、画面は非表示の状態になります。操作を続行する前に、ユーザー名とパスワー ドを入力します("オンスクリーンディスプレイ(OSD)操作" on page 18を参照)。管理者 によってログインが無効化されている場合は、F8機能も無効かされています。 2.ログアウトした後にOSDに再びアクセスし、OSDメニューからポートを選択せずに、直 ちに[Esc]キーを使用してOSDを無効化する場合は、Null Portメッセージが画面に表示され ます。OSDホットキーをタップすると、OSDメイン画面が開きます。

ホットキーの操作

ホットキーポート制御

ホットキーポート制御により、キーボードから直接、特定のコンピュータにKVMフォーカ スを与えることができます。KVMスイッチには、以下のホットキーポート制御機能があり ます。

- ・有効なポートの選択方法
- Auto Scan モードの切り替え
- Skip モードの切り替え
- ・コンピュータキーボード/マウスのリセット

以下の設定は、Hotkeyモードでも制御できます。

- ・ビープ音の設定
- ・ Quick Hotkey の設定
- ・ OSD Hotkey の設定
- ・ Port Operating System の設定
- OSD のデフォルト値の復元

Hotkeyモードの起動

すべてのホットキー操作は、Hotkeyモードを起動してから開始します。Hotkeyモードを起 動するには、以下に示す2通りのキーストロークシーケンスが使用できます。以下のキー シーケンスの1つのみが操作できます("Hotkeyのキーの組み合わせの設定" on page 31を参 照)。

[NUM LOCK] + [-]

- 1. [NUM LOCK] キーを押したまま、
- 2. [MINUS] キーを押して放します。
- 3. [NUM LOCK] キーを放します。

[CTRL] **+** [F12]

- 4. [CTRL] キーを押したまま、
- 5. [F12] キーを押して放します。
- 6. [CTRL] キーを放します。

Hotkeyモードの環境

Hotkeyモードが有効な場合は次のようになります。

- モニタ画面にコマンドラインが表示されます。コマンドラインプロンプトは、青のバッ クグラウンドに白い文字で「Hotkey」という語が表示され、その後に入力されたホッ トキー情報が表示されます。
- キーボードとマウスの通常機能は、Hotkey モード中には無効となります。Hotkey の設定に従ったキーストロークのみが入力可能です。

Hotkeyモードの終了

Hotkeyモードを終了するには[Esc]を押します。Hotkey Command Mode機能が有効になっており、適切なホットキーが入力されていることを確認します。"ホットキーの操作" on page 28を参照してください。

有効なポートの選択方法

各コンピュータポートにはポートIDが割り当てられます("ポートIDのナンバリング" on page 17を参照)。コンピュータが接続されているポートIDを指定するホットキーの組み合わせを使用して、任意のコンピュータに直接アクセスすることができます。有効なポートを選択するには:

- 1. Hotkey モードを起動します ([NUM LOCK] + [-]または [CTRL] + [F12])。
- ポート ID を入力します。ポート ID を入力するとコマンドラインに ID 番号が表示され ます。間違いを消去するには、[BACKSPACE] を使用します。
- 3. [ENTER] を押して、指定されたコンピュータへの KVM スイッチにフォーカスすると、 自動的に Hotkey モードが終了します。

注意:Hotkeyモードでは、無効なスイッチまたはポート番号が入力された場合は、KVM フォーカスはポートに切り替わりません。Hotkeyコマンドラインは、有効なスイッチと ポート番号の組み合わせが入力されるか、Hotkeyモードが終了するまで表示され続けます。

Auto Scanモードの切り替え

Auto Scanは、現在ログオンしているユーザーがアクセス可能なすべての有効なコンピュー タポートの間で、一定の間隔で自動的に切り替わります。これにより自動的な監視が可能 になります。

スキャン間隔の設定

各ポートごとにAuto Scanが実行される時間の長さは、OSD F3:SET機能("F3:SET" on page 22を参照)の「Scan Duration」の設定を使用して設定されます。スキャン間隔は、以下のホットキーの組み合わせを入力することにより、Hotkey Auto Scanningを起動する前に変更することができます。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- [A][N] を入力します([A] は文字のAで、[N] は秒単位でフォーカス時間の長さを示す 1~255の数字です)。文字「A」と数字を入力すると、コマンドラインにそれが表示 されます。間違いを消去するには、[BACKSPACE] を使用します。
- 3. Hotkey モードを終了するには [ENTER] を押します。自動スキャンを開始できるように なります。

自動スキャンの起動

自動スキャンモードを起動するには、以下のホットキーの組み合わせを入力します。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- 2. [A] + [ENTER] キーを押します。
 - Auto Scan モードの間、特定のコンピュータにフォーカスを維持するため、[P] を押してスキャンを一時停止することができます。一時停止した場合は、Command Line に "Auto Scan:Paused" と表示されます。
 - 特定のコンピュータにフォーカスを維持するには、Auto Scan モードを終了するよりも、一時停止のほうが便利です。スキャンを再開する場合は、スキャンを一時停止したコンピュータからスキャンを開始します。自動スキャンを終了して再起動した場合は、設置されている最初のコンピュータからスキャンを開始します。

任意のキーを押すと、スキャンを一時停止したコンピュータからスキャンを再開します。

Auto Scan モードの実行中は、キーボードとマウスの通常の機能が一時的に停止します。Auto Scan の設定に従ったキーストロークのみが入力可能です。Auto Scan モードを終了し、コンソールの通常の制御に戻ります。

自動スキャンの終了

Auto Scanモードを終了するには、[Esc]または[スペースバー]を押します。Auto Scanを終了 すると、スキャンを中止します。

Skipモードの切り替え

監視を行うコンピュータを手動で切り替えます。一定の間隔で自動的にポートフォーカス を切り替える自動スキャンとは異なり、特定のポートに必要なだけ長くフォーカスするこ とができます。

スキップモードの開始

Skipモードを開始するには、以下のホットキーの組み合わせを入力します。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- 2. 矢印キーの1つを押します。
- 3. 矢印キーのどれかを押すと、Hotkey モードが自動的に終了し、Skip モードになりま す。以下の方法でポートを切り替えます。
 - **左**矢印を押すと、アクセス可能な最初のポートに移動します(アクセス可能なポートについては、"Scan/Skip モード" on page 23 を参照してください)。
 - 右矢印を押すと、アクセス可能な次のポートに移動します。
 - 上矢印を押すと、前のステーションの最後のポートに移動します。
 - 下矢印を押すと、次のステーションの最初のポートに移動します。
- Skip モードの間は、矢印キーを押せばスキップを継続します。[NUM LOCK] + [-]の組み 合わせを再び使用する必要はありません。
- 5. Skip モードの実行中は、キーボードとマウスの通常の機能が一時的に停止します。 Skip モードに従ったキーストロークのみが入力可能です。Skip モードを終了し、コン ソールの通常の制御に戻ります。

Skipモードの終了

Skipモードを終了するには、[Esc]または[スペースバー]を押します。

コンピュータキーボード/マウスのリセット

現在選択しているポートに接続されたコンピュータでキーボードまたはマウスのいずれか が機能を停止した場合は、このコンピュータでキーボード/マウスのリセットを実行できま す。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- [F5] を押します。[F5] を押した後に、Hotkey モードは自動的に終了し、KVM ポートに 接続されているコンピュータでのキーボードとマウスのコントロールは元に戻ります。
 [F5] を押した後に、コンピュータでのキーボード / マウスのコントロールができない場 合は、システムリセットを実行します("リセットスイッチ" on page 10 を参照)。

この機能は、ターゲットコンピュータでのキーボードとマウスの抜き差しと本質的に同じことです。

Hotkeyビープ音のオン/オフの設定

ホットキーでビープ音("ビープ音の 有効化" on page 23を参照)をオン/オフします。

- 1. Hotkey モードを起動します ([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- ビープ音のオン / オフを切り替えるには [B] を押します。コマンドラインに1秒 間、"Beeper On" または "Beeper Off" が表示されてからメッセージが消え、Hotkey モードは自動的に終了します。

Hotkeyのキーの組み合わせの設定

Hotkeyモード("ホットキーの操作" on page 28を参照)に入るために使用するキーを切り 替えます。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- 2. [H] を押すと、コマンドラインに "Hotkey has Been Changed" が1秒間表示されてから メッセージが閉じ、Hotkey モードが自動的に終了します。

OSD Hotkeyの組み合わせの設定

OSD("OSDホットキー" on page 22を参照)へのアクセスに使用するホットキーは、 [SCROLL LOCK]、[SCROLL LOCK]、[CTRL]、[CTRL]、および[ALT]、[ALT]の間を切り替えることがで きます。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- 2. [T] を押すと、コマンドラインに "Hotkey has Been Changed" が1秒間表示されてから メッセージが閉じ、Hotkey モードが自動的に終了します。

Port Operating Systemの設定

ポートのOS設定をポートに接続されているコンピュータのOS設定に一致させます。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- 2. 以下のファンクションキーの1つを押します。

+-	説明	
F1	ポート OS を Windows に設定します。	
F2	ポート OS を Mac に設定します。	
F3	ポート OS を Sun に設定します。	

ファンクションキーを押した後に、Hotkeyモードは自動的に終了します。

デフォルト値の復元

管理者のみが使用可能なこのホットキーを使用して、KVMスイッチのデフォルト値 ("デフォルト値に戻す" on page 25を参照)を復元します。

- 1. Hotkey モードを起動します([NUM LOCK] + [-] または [CTRL] + [F12])。
- 2. [R] を押します。
- 3. [ENTER] を押すと、コマンドラインに "Reset to Default Setting" が3秒間表示されてか らメッセージが閉じ、Hotkey モードが自動的に終了します。

ホットキーの早見表

	[A] [Enter]	以下の手順で、Auto Scan モードを起動します。 Auto Scan モードが有効な間は、[P] または左クリック で自動右スキャンを一時停止します。 自動スキャニングが一時停止中は、任意のキーまたは左 クリックで自動スキャニングを再開します。
	[B]	ビーパー機能のオン / オフを切り替えます。
	[Esc] または [ス ペースバー]	Hotkey モードを終了します。
	[F1]	OS を Windows に設定します。
	[F2]	OS を Mac に設定します。
	[F3]	OS を Sun に設定します。
[Num Lock] + [-]	[F5]	ターゲットコンピュータでキーボード / マウスをリセッ トします。
[[Null LOCK] + [-] または [Ctrl] +	[H]	ホットキー起動キーをトグルします。
[F12]	[ポート ID] [Enter]	ポート ID に対応するコンピュータへのアクセスを切り 替えます。
	[R] [ENTER]	管理者のみが使用可能なホットキーです。スイッチの設 定をデフォルト値に戻します。
	[T]	OSD ホットキーを [CTRL] [CTRL] および [SCROLL LOCK] [SCROLL LOCK] の間で切り替えます。
	3	Skip モードを起動して、現在のポートから最初にアクセ ス可能な前のポートに移行します。
	4	Skip モードを起動して、現在のポートから次にアクセス 可能なポートに移行します。
	5	Skip モードを起動して、現在のポートから以前のステー ションでの最後にアクセス可能なポートに移行します。
	6	Skip モードを起動して、現在のポートから次のステー ションでの最初にアクセス可能なポートに移行します。

キーボードエミュレーション

Macキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、Macキーボードの機能をエミュレートできます。 エミュレーションマッピングのリストは、以下の表に記載されています。

PCキーボード	Macキーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	\mathcal{H}
[Ctrl] [1]	T
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
e r	=
[Enter]	Return
[Backspace]	削除
[Insert]	ヘルプ
[CTRL]	F15

注意:キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー [CTRL]を押して放し、次にアクティベーションキーを押して放します。

Sunキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、コントロールキー[CTRL]を他のキーと組み合わせて使用すると、Sunキーボードをエミュレートすることができます。対応する機能を以下に示します。

PCキーボード	Sunキーボード
[Ctrl] [T]	停止
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	前面
[Ctrl] [F6]	Сору
[Ctrl] [F7]	Open(開く)
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	() - =()
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	C
[Ctrl] [H]	ヘルプ
	Compose
	Meta

注意:キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(CTRL)を押して放し、次にアクティベーションキーを押して放します。

ファームウェアアップグレー ドユーティリティ

はじめに

Windowsベースのファームウェアアップグレードユーティリティは、KVMスイッチおよび 互換性のあるアダプタケーブルファームウェアをアップグレードするための自動化された プロセスを提供します。このプログラムは、各デバイスに固有のFirmware Upgrade Packageの一部として提供されます。

KVMスイッチ、およびサポートされているKVMアダプタケーブル用の新しいファームウェ アの最新レビジョンは、当社WebサイトでFirmware Upgrade Packageとして公開されてい ます。最新のファームウェアパッケージとその関連情報について、定期的に当社Webサイ トをチェックしてください。

注意:1.1つのアップグレードパッケージには、メインボードとサポートされているすべてのKVMアダプタケーブルのためのアップデートファイルが含まれています。 2.KVMアダプタケーブルは、一部のダイアログボックスではI/Oモジュールと表示されている場合があります。

はじめる前に

ファームウェアアップグレードを準備するには:

- 1. KVM 設定環境に含まれていないコンピュータから、www.apc.com にアクセスし、ご 使用のデバイスに関連するモデル名を選択して、使用可能なファームウェアアップグ レードパッケージのリストを入手してください。
- 2. インストールする(一般的に最新の)ファームウェアアップグレードパッケージを選 択し、コンピュータにダウンロードします。
- ファームウェアアップグレードケーブル(同梱)を使用して、コンピュータの COM ポートにデバイスのファームウェアアップグレードポートを接続します。詳細な手順 については、"ファームウェアアップグレードポート" on page 10 を参照してください。

注意:階層構成の場合は、ケーブルを第1ステーション(マスター)ユニットに接続 します。同じモデルの各階層は、チェーンケーブルを介してアップグレードを受け取 ります。

 KVM スイッチコンソールから、OSD("オンスクリーンディスプレイ(OSD)操作" on page 18 を参照)を開き、"F4:ADM"機能を選択します。 5. "Firmware Upgrade" までスクロールダウンします。[ENTER] を押し、次に [Y] (はい) を押して Firmware Upgrade モードを開始します。



注意:1.KVM アダプタケーブルに対するアップグレードは、アダプタケーブルと KVM スイッチを接続する Cat 5e/6 ケーブルを通して行われるため、別のファーム ウェアアップグレードケーブルを接続する必要はありません。 2. アップグレードユーティリティで選択されたアダプタケーブルファームウェアは、 ファームウェアタイプに一致するすべての接続されたアダプタケーブルモデルを1回 のセッションでアップグレードします。

6. "Adapter Upgrade" までスクロールダウンします。[ENTER] を押し、次に [Y] を押してア ダプタケーブルのみの Firmware Upgrade モードを開始します。

アップグレードの実行

アップグレードの開始

ファームウェアをアップグレードするには:

- ダウンロードした Firmware Upgrade Package ファイルを実行するには、ファイルア イコンをダブルクリックするか、またはコマンドラインを開いてファイルのフルパス を入力します。
- ユーティリティによって KVM スイッチが Firmware Upgrade モードになっていること が確認されてから、Device List パネルで事前に選択された、必要なすべてのファーム ウエアのリストが表示されます。

注意: 1.Device List では、アップグレードが必要なすべての KVM サーバーモジュー ルのリストが表示されます。

2. ユーティリティがファームウェアのリスト表示に失敗した場合は、KVM スイッチが 接続されていることと、Firmware Upgrade モードになっていることをチェックしま す。Firmware Package が破損していたり、バージョンが間違っている場合がありま す。ファイルの新しいコピーを取得し、もう一度試みます。

- MAIN を選択して、メインボードのファームウェアをアップグレードします。アップ グレードを実行しない KVM サーバーモジュールの選択を解除します。選択を行った 後に、Next をクリックして、アップグレードを実行します。
 - a. Check Firmware Version このオプションを選択した場合、ユーティリティは、メインボードのファームウエアバージョンをアップグレードファイル MAIN と比較します。デバイスのバージョンがアップグレードのバージョンよりも新しい場合は、ダイアログボックスに表示され、アップグレードを継続するかキャンセルするかを選択します。

Warning	X
2	The firmware (Ver 1.0.085) is not newer than current firmware (Ver 1.0.085) in device MAIN : 001-000 Continue the upgrade? (Yes/No)
	<u> </u>

- b. Check Firmware Version が有効にならなかった場合は、アップグレードファイルは バージョンをチェックせずにインストールされます。
- c. Status Messages パネルにステータスメッセージが表示され、アップグレードの完 了までの進行が進捗バーに表示されます。
- d. アップグレードが完了する前に中止するには、Cancel をクリックします。
- e. 完了前にアップグレードをキャンセルする場合は、アップグレードが完了しないこと知らせるメッセージが警告のダイアログボックスが表示され、操作を継続するか中止するかを選択します。メインボードおよび OSD ファームウェアが、スイッチの再起動時に見つからないか、または破損している場合があります。

注意:ファームウェアの欠落または破損からの復元については、"ファームウェアアップグ レー ドユーティリティ " on page 35を参照してください。

Upgrade succeeded

アップグレードの完了後、手順が正常に完了したことを知らせる画面が開きます。

FinishをクリックしてFirmware Upgrade Utilityを閉じます。

注意:アップグレードが完了すると、KVMスイッチが再起動します。

Upgrade failed

アップグレードが正常に完了しなかった場合は、再試行するかどうかを確認するダイアロ グボックスが表示されます。Yesをクリックして、アップグレードを再試行します。Noを 押した場合は、「Upgrade Failed」画面が表示されます。

CancelをクリックしてFirmware Upgrade Utilityを閉じます。

ファームウェアアップグレードの復元

万一、スイッチのファームウェアが欠落または破損している場合は、スイッチを操作また は起動することができない場合があります。次の原因でファイルが破損する場合がありま す。

- Firmware Upgrade モードが完了する前のキャンセル。
- ファームウェアアップグレードの中断。
- ファームウェアアップグレードプロセスの失敗。

メインボードのファームウェアアップグレードの復元

ファームウェアアップグレードの復元を実行するには、次の手順に従ってください。

- KVM スイッチで、Firmware Upgrade Recovery Switch ("ファームウェアアップグレード復元スイッチ" on page 10 を参照)を「Recover」位置にスライドします。
- 2. 電源をオフにしてからスイッチを再起動します("電源オフおよび再起動" on page 17 を参照)。
- ファームウェアアップグレードを継続します("アップグレードの実行" on page 37 を 参照)。
- 4. アップグレードが終了したら、スイッチの電源をオフにします。
- 5. Firmware Upgrade Recovery Switch をスライドして「Normal」位置に戻します。
- 6. スイッチを電源オンにします。

注意:子KVMユニットの1つがアップグレードを正常に完了できない場合は、設定環境から そのユニットを切り離し、個別に復元とアップグレード操作を実行します。そのユニット が正常にアップグレードを完了した後に、元のチェーンに接続します。

サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元

サーバーモジュールのファームウェアアップグレードの復元を実行するには:

- 1. サーバーモジュールを接続されているコンピュータから外します。
- Firmware Upgrade Recovery Switch (RJ45 コネクタの横にあります)を「Recover」 位置にスライドします。
- 3. サーバーモジュールを元のコンピュータに接続します。
- 4. KVM スイッチコンソールから、OSD("オンスクリーンディスプレイ(OSD)操作" on page 18 を参照)を呼び出し、"F4:ADM"機能を選択します。
- 5. "FIRMWARE UPGRADE" までスクロールダウンします。[ENTER] キーを押します。
- 6. [Y] を押してアップグレードモードを起動します。
- ファームウェアアップグレードを継続します("アップグレードの実行" on page 37 を 参照)。
- アップグレードが完了し、スイッチが再起動した後に、コンピュータからサーバーモジュールの接続を外し、Firmware Upgrade Recovery Switch をスライドして「Normal」位置に戻します。
- 9. サーバーモジュールを元のコンピュータに接続します。





操作上の問題はさまざまな原因が考えられます。問題解決の第一歩は、すべてのケーブル がしっかりと接続され、ソケットに完全にはめ込まれていることを確認することです。

さらに、以前のバージョンがリリースされた後に問題が発見され解決されている場合は、 製品のファームウェアをアップデートすることにより問題が解決する場合があります。ご 使用の製品で最新のファームウェアバージョンを実行していない場合は、アップグレード することを強くお勧めします("ファームウェアアップグレー ドユーティリティ" on page 35を参照)。

問題	解決方法
マウスまたはキーボードが反 応しない	コンソールポートからケーブルを抜き、もう一度接続しま す。
すべてのステーション ID が 01 に表示される	ステーション1の電源が突然切れるシステムがステーショ ンの再初期化シーケンスを実行し、正しい ID を表示するの を数秒待ちます。 ・ステーション ID のリセットを実行します(" ステーショ ン ID のリセット " on page 25 を参照)。 ・チェーン接続ケーブルを抜き、もう一度接続します。

OSDの工場デフォルト設定

設定	テ [•] フォルト
OSD ホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポート ID の表示位置	左上隅
ポート ID の表示時間	3秒
ポート ID の表示モード	ポート番号 + ポート名
スキャン時間	5秒
Scan/Skip モード	全機種
スクリーンブランカ	OFF
Hotkey Command モード	ON
ホットキー	[Num Lock] + [-]
ログアウトタイムアウト	OFF
[Beeper]	ON
アクセス可能なポート	F (フルアクセス)、すべてのユーザーによるすべ てのポートへのアクセス
運転モード	
OSD の言語	 英語

接続テーブル

以下の表に、KVM0108A / KVM0116Aユニットの番号と、これらのユニットが制御するコンピュータの番号の間の関係を示します。

KVM0108A

番号	コンピュータ	番号	コンピュータ	番号	コンピュータ	番号	コンピュータ
1	1-8	9	65 - 72	17	129 - 136	25	193 - 200
2	9 - 16	10	73 - 80	18	137 - 144	26	201- 208
3	17 - 24	11	81 - 88	19	145 - 152	27	209 - 216
4	25 - 32	12	89 - 96	20	153 - 160	28	217 - 224
5	33 - 40	13	97 - 104	21	161 - 168	29	225 - 232
6	41 - 48	14	105 - 112	22	169 - 176	30	233 - 240
7	49- 56	15	113 - 120	23	177- 184	31	241 - 248
8	57 - 64	16	121 - 128	24	185 - 192	32	249 - 256

KVM0116A

番号	コンピュータ	番号	コンピュータ	番号	コンピュータ	番号	コンピュータ
1	1 - 16	9	129 - 144	17	257 - 272	25	385 - 400
2	17 - 32	10	145 - 160	18	273 - 288	26	401 - 416
3	33 - 48	11	161 - 176	19	289 - 304	27	417 - 432
4	49 - 64	12	177 - 192	20	305 - 320	28	433 - 448
5	65 - 80	13	193 - 208	21	321 - 336	29	449 - 464
6	81 - 96	14	209 - 224	22	337 - 352	30	465 - 480
7	97- 112	15	225 - 240	23	353 - 368	31	481 - 496
8	113 - 128	16	241 - 256	24	369 - 384	32	497 - 512



機能			KVM0108A	KVM0116A	
コンピュー	直接		8	16	
タへの接続 部	最大		256	512	
	コンソー	キーボー ド	2 x 6 ピンミニ DIN メス型 (紫) 2 x USB(黒)	2 x 6 ピンミニ DIN メス型 (紫) 2 x USB(黒)	
	ルポート	ビデオ	2 x HDB-15 メス型(青)	2 x HDB-15 メス型(青)	
コネクタ	(背面)	マウス	2 x 6 ピンミニ DIN メス型 (緑) 2 x USB(黒)	2 x 6 ピンミニ DIN メス型 (緑) 2 x USB(黒)	
	コンソー ルポート (前面)	ラック LCD コン ソール	15 ピン DIN メス型	15 ピン DIN メス型	
	KVM ポート		8 x RJ-45(黒)	16 x RJ-45(黒)	
	電源		1 x IEC C14	1 x IEC C14	
	チェーンイ	ン/アウト	シリアルメス型	シリアルメス型	
スイッチ	リセット		1 x 凹型プッシュボタン	1 x 凹型プッシュボタン	
LED	[Port]		16(緑 / 赤 / オレンジ)	16(緑 / 赤 / オレンジ)	
	電源		1(青)	1(青)	
	ステー ション ID		1(オレンジ)	1(オレンジ)	
ビデオ			1600x1200 @ 60Hz	1600x1200 @ 60Hz	
I/P 定格			100 ~ 240VAC、50/60Hz; 1.0A	100 ~ 240VAC、50/60Hz; 1.0A	
電力消費			最大 20.6 W	最大 20.6 W	
	動作温度		0 ~ 50°C (32°F ~ 122°F)	0 ~ 50°C (32°F ~ 122°F)	
環境	保管温度		-20°C ~ 60°C (-4°F ~ 140°F)	-20°C ~ 60°C (-4°F ~ 140°F	
	湿度		0~80%、結露のないこと	0~80%、結露のないこと	
	ケース		金属製	金属製	
44.14	質量 / 梱包睛	持質量	2.4 kg (5.28 lbs) / 3.9 kg (8.58 lbs)	2.4 kg (5.28 lbs) / 3.9 kg (8.58 lbs)	
特性 	寸法(奥行	x幅x高さ)	18.8 cm (7.4 インチ) x 42.4 cm (16.69 インチ) x 4.3 cm (1.69 インチ) (19" 1U)	18.8 cm (7.4 インチ) x 42.4 cm (16.69 インチ) x 4.3 cm (1.69 インチ) (19" 1U)	

電波障害

担当機関の明示的な承認を受けずに本製品を改変すると、本製品の運用権が取り消される 可能性があります。

米国 - FCC

本製品は FCC 規則パート 15 のクラス A デジタル機器基準に準拠しています。これらの基準は機器を商用環境で運用する際に、有害な干渉から保護することを目的に策定されています。本製品は無線周波エネルギーを生成および使用、放射しています。ユーザマニュアルの指示に従って適切に取り付けて使用しないと、無線通信の障害となる干渉が発生する可能性があります。本製品を住宅地で利用する場合、有害な干渉が発生する可能性があります。このような干渉の解消についてはユーザ本人がその責務を負います。

カナダ - ICES

このクラス A デジタル装置はカナダの ICES-003 に準拠しています。 This Class A digital apparatus complies with Canadian ICES-003. *Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.*

日本 - VCCI

This device is a Class A device. Using this device in a home environment may cause radio wave interference. In this case, the user may be required to take appropriate measures.

この装置は、クラス A 装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨 害を引き起こす ことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずる よう要求されることがありま す。

VCCI-A

台湾 —BSMI

警告使用者: 這是甲類的資訊產品,在居住的 環境中使用時,可能會造成射頻 干擾,在這種情況下,使用者會 被要求採取某些適當的對策。

欧州連合(EU)

本製品は、EU議会のEU指令2014/30/EU、および2014年2月26日に定められた電磁両立性 に関する加盟国の法律調整理事会によって定められた電磁両立性(EMC)の要件に適合し ています。

本製品は、CISPR 32/EN55032:2015(電磁波放射規制)および EN 55024:2010+A1:2015 (電磁耐性)に沿って、クラスA情報技術機器の制限に準拠していることが検査および確認 されています。

注意:これはクラスA機器です。家庭や住宅環境では、本製品による電波障害が発生することがあります。このような場合、使用者が適切な対応を求められる可能性があります。

連合王国

本製品は、2021年1月1日から英国に供給される製品に適用される英国の電磁両立規制 2016 に準拠しています。

本製品は、CISPR 32/EN 55032:2015(電磁放射)および EN 55024:2010+A1:2015(電磁 耐性)に従って検査され、クラスA情報処理装置基準に準拠していることが確認されてい ます。

注意:これはクラスAの製品です。この製品は住宅や住居環境で電波障害を引き起こす恐れ があります。このような場合、ユーザは適切な対応を求められる可能性があります。

2年間の工場保証

本保証は、購入された製品を本書に従って使用した場合にのみ適用されます。

保証の条件

Schneider Electricは、お客様のご購入日から2年間、製品に原材料や作業工程の欠陥がない ことを保証します。Schneider Electricは本保証の対象製品の欠陥を修理または交換するも のとします。その他の損害、たとえば事故、過失、操作誤り、または製品の改竄などによ る損傷に対しては、この保証はいっさい適用されません。本項に記載の欠陥製品または部 品の修理や交換により元の保証期間が延長されることはありません。本保証下で供給され る部品は、新品または工場で再製造されたものである場合があります。

第一購入者の保証

本保証は、適切に製品のユーザー登録を行った購入者にのみ適用されます。本製品の登録 は、Schneider ElectricのWebサイト(www.apc.com)から行ってください。

適用除外

申し立てられた製品の欠陥がSchneider Electricのテストまたは検査の結果存在しないと判 明された場合、あるいはお客様または第三者の誤用、過失、不適切な設置、テストによる ものであることが判明した場合、Schneider Electricは保証下での責任を負わないものとし ます。さらに、欠陥が承認されていない修理または変更の試み、電源電圧または接続の誤 用または不適合、不適切な実地運転環境、侵食性の外気、外環境への被曝、不可抗力、火 災、盗難、またはAPC推奨/指定の方法に反する設置によるものである場合、APCシリアル 番号が改竄、摩損、消去された場合、あるいは意図された使用の範囲を超えるその他の原 因によるものである場合は、Schneider Electricは保証下での責任を負わないものとします。

SCHNEIDER ELECTRICこの契約に基づき、またはここに記載された条件に同意の下で購入、サービス、設置をした製品に対し、法律の運用その他により明示的または黙示的に適用される保証事項はありません。SCHNEIDER ELECTRICは、製品の市場性、満足度、特定の目的に対する適合性に関する黙示的な保証についてはすべてその責任を負わないものとします。SCHNEIDER ELECTRICの明示的な保証が拡大、縮小、または影響を受けることはなく、本製品に関してSCHNEIDER ELECTRICが提供する技術面その他のアドバイスまたはサービスからはいかなる義務または責務も派生しないものとします。以上の保証および賠償は限定的なものであり、その他の保証や賠償すべてに代わるものです。上記の記載の保証が当該保証のあらゆる不履行に対するSCHNEIDER ELECTRICの唯一の責務であり、購入者の法的救済です。SCHNEIDER ELECTRICの保証は購入者のみに適用され、いかなる第三者にも拡大適用されません。

いかなる場合も、製品の使用、サービス、または設置から生じたいかなる間接的、特別、 結果的、懲罰的損害についても、その損害が契約の記述または不法行為のあるなしを問わ ず、過失または怠慢、厳格責任に関係なく、SCHNEIDER ELECTRICが事前にそのような 損害の可能性を通知したかどうかに関わらず、SCHNEIDER ELECTRIC、同社幹部、取締 役、支社、従業員はその責任を負わないものとします。特にSCHNEIDER ELECTRICは、 利益の損失、設備の損傷、設備の使用不能による損失、ソフトウェアの喪失、データ喪失、 代替費用、第三者の主張など、いかなる損害に対しても責任がないことをここに明言しま す。

SCHNEIDER ELECTRICのセールスマン、従業員、または代理店のいかなる者も本保証の 条件を追加したり、変更したりする権限を持ちません。保証の条件は、たとえ変更される 場合も、SCHNEIDER ELECTRICの役員と法務部の署名により書面によってのみ変更可能 です。

保証の請求

保証の請求に際しては、Schneider ElectricのWebサイトの「サポート」ページ (www.apc.com/support)のSchneider Electricカスタマサポートにご連絡ください。Web ページ上部の国名選択プルダウンメニューから、お住まいの国を選択し、お客様の地域の カスタマサポートに関するお問い合わせ情報を入手してください。

ワールドワイドカスタマサポート

本製品のカスタマサポートについては、www.apc.comにてご覧いただけます。

APC

70 Mechanic Street Foxboro, MA 02035 USA

www.apc.com

規格、仕様、設計はその時々で変更されるため、この出版物に含まれ る情報は必ず確認を取ってください。

© 2020–2022 Schneider Electric. APC、APCロゴ、およびEcoStruxure は、Schneider Electric SEまたは その子会社の商標です。その他のブ ランドはすべて、それぞれの所有者の商標で す。

990-4406D-018